

大 阪 市 総 合 教 育 セ ン タ ー
教育振興担当 実践研究グループ
首 席 指 導 主 事 様

研究コース
A グループ研究A
校園コード（代表者校園の市費コード）
511001

代表者	校 園 名：	堀川小学校
	校園長名：	福村 恭央
	電 話：	6358－3336
	事務職員名：	竹本 菜々
申請者	校 園 名：	堀川小学校
	職 名・名前：	校長・福村 恭央
	電 話：	6358－3336

令和8年度「がんばる先生支援事業」申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	Well-beingを育む授業設計力の向上 － 知・徳・体を貫く「問いと対話」の授業づくりを通じた教師の指導力研究 －			
3	研究目的	テーマに合致した目的を項立てして記載してください。 「教師一人ひとりの授業設計力の向上」を主たる研究目的とする。授業設計力を、大学教員・専門家との協働研究を通じて組織的に高め、教師のWell-beingと子どものWell-beingを同時に実現することをめざす。 本校のWell-beingを次のように定義した。子どもが自分の「問い」を持ち、仲間との対話を通して解決するプロセスで「わかった!」「できた!」「もっと知りたい!」を実感している状態。 1 国語科を核とした「問いと対話」の授業において、教師が考えのズレを生む場面を意図的に設計できる授業設計力を明らかにする。（第1年次：基礎の確立） 2 「問い・対話・振り返り」の授業設計が、子どもの「わかった・できた・もっと知りたい（Well-being）」の実感にどのようにつながるかを明らかにする。（第1～2年次：検証） 3 体育科における主体的な学びの単元設計力、および対話を生む学級経営の手立てを明らかにし、知・徳・体を貫く授業設計の共通言語を学校全体で構築する。（第1～2年次：確立） 4 教師の授業設計力の向上（教師のWell-being）と子どもの学びの充実（子どものWell-being）の相関関係を明らかにする。（第2～3年次：体系化） 5 3年間の研究成果を再現可能な実践モデルとして体系化し、他校へ普及・発信できる形に整える。（第3年次：普及）			
4	研究内容	(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する 研究の方向性 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 【本研究の構造：3年間で何を明らかにするか】 本研究は「教師の授業設計力の向上がWell-beingを育む授業を生む」という仮説を、3年間の実証研究を通じて検証するものである。研究の中心に置く問いは「教師が意図的に設計した『問いと対話』の授業は、子どもと教師双方のWell-beingをどのように高めるか」である。 【第1年次（令和8年度）の研究内容：基礎の確立】 ▼ 知：国語科を核とした授業設計力の向上 白石範孝先生（元明星大学）のご指導のもと、物語文の教材分析力・単元設計力を組織的に高める。「考えのズレ」を生む導入設計、叙述に基づく問いの構造化（きっかけ・中心・深める）、初読・精読・総読の単元設計を全教員が習得するための研修体系を構築する。また佐藤真教授（関西学院大学）と樋口万太郎准教授（中部大学）のご指導による授業研究会（年6回）を通じて、実際の授業を素材に設計力の向上を図る。 ▼ 徳：対話を生む学級経営力の向上 沖本和子先生のご指導（年2回）のもと、「安心して問いを出せる学級」をつくる学級経営の手立てを研究する。授業における対話と学級の心理的安全性の関係を、授業記録と教員・児童アンケートをもとに分析する。 ▼ 体：主体的な体育授業を設計する力の向上 齋藤直人教諭（筑波大学附属小学校）のご指導（年1回）のもと、子どもが体を動かしながら考える体育の単元設計力を向上させる。師範授業を参観し、設計力の実践的な向上を図る。 ▼ 共通基盤：授業設計ツールの整備と研究文化の醸成 今年度は以下のツールを整備し、来年度以降の検証・精緻化の土台とする。 ・研究冊子（物語文の教材分析の視点・問いの設計・対話の手立て・合理的配慮をまとめたもの） ・指導案テンプレート（問いの位置づけ・Well-beingの姿・評価規準を一体化したもの） ・教員・児童アンケート（年3回実施。第1回を基準値として第3回との変容を検証する）			
		(2)継続研究〔2年目〕 ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する			
		(3)継続研究〔3年目〕			

5	活動計画	日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。 4月 【研究全体会①】今年度の研究テーマ・年間計画の共通理解を図る。 【研究推進委員会①】児童・教員アンケート①（ベースライン測定）を実施・分析する。 【全体研修会②】集団づくり研修 学級びらき研修 5月 【研究推進委員会②】教員アンケート分析・各部会（知・徳・体）で実践の方向性を協議する。 6月 【全体研修会③】集団づくり研修（講師：沖本和子先生） 7月 【授業研究会①（国語・中学年）】指導助言 中部大学 樋口万太郎准教授 8月 【全体研修会④】国語科教材分析研修「物語文の教材分析と問いの設計」（白石範孝先生） 【管外出張】筑波大学附属小学校 公開研究会参加（国語の実践から学ぶ） 9月 【授業研究会②（国語・高学年）】指導助言 関西学院大学 佐藤真教授 【授業研究会③（国語・低学年）】指導助言 中部大学 樋口万太郎准教授 【研究推進委員会③】中間評価 児童・教員アンケート②の実施・分析 10月 【授業研究会④（国語・中学年）】指導助言 関西学院大学 佐藤真教授 11月 【全体研修会⑤】体育実技研修「子どもが主体的に動く体育の単元設計」 講師：筑波大学附属小学校 齋藤直人教諭 体育科における問いと主体性の授業設計力 12月 【公開授業研究会⑤（国語・高学年）】指導助言 関西学院大学 佐藤真教授 1月 【研究推進委員会④】年度末に向けて各学年の進捗共有 2月 【全体研修会⑥】集団づくり研修（講師：沖本和子先生）1年間の対話の土台づくりを振り返り 【授業研究会⑥（国語・低学年）】指導助言 関西学院大学 佐藤真教授 【管外出張】筑波大学附属小学校・福岡大学附属福岡小学校 公開研究会参加 【研究推進委員会⑤】児童・教員アンケート③・学力経年調査結果の実施・分析 ・がんばる先生支援報告書作成・提出 3月 【研究推進委員会⑥】研究のまとめ作成、次年度への引き継ぎ 【研究全体会⑦】本年度の成果と課題の共通理解、次年度の方向性確認
		出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組内容を記載してください。 「筑波大学附属小学校研究会」「福岡大学附属福岡小学校」の最先端の授業実践から学び、本校の研究に活かし、研究の方向性を確かめ、振り返るために参加する。 授業研究会の指導助言 講師：関西学院大学 佐藤真教授 年4回実施 授業研究会の指導助言 講師：中部大学 樋口万太郎准教授 年2回実施 国語科教材分析研修 講師：元明星大学 白石範孝教授 年1回実施（8月） 体育実技研修 講師：筑波大学附属小学校 齋藤直人教諭 年1回実施（12月）
6	見込まれる成果とその検証方法	(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。 ☐ 変更しない。理由 ☐ 変更する。
		(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成および、「教員の資質や指導力」の向上について、それぞれ見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください） 【見込まれる成果1】 ☐ 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 ☒ 「教員の資質や指導力」の向上 教材分析研修・授業研究会・実技研修を通じて、「問いを生む授業設計」を単元レベルで構成できる教員が増加する。具体的には、国語科では「考えのズレ」を意図的に生む導入を設計でき、体育科では子どもが主体的に動く単元計画を立案できる教員が育つ。今年度整備する研究冊子・指導案テンプレートが、若手教員の「授業設計の拠り所」となる。 《検証方法》 教員アンケート（年3回：4月・10月・2月）の以下の項目の肯定的回答が年度末に80%以上となる。 「授業の設計（単元計画・問いの位置づけ）に自信を持って取り組みめた」「教材分析を通じて、子どもがズレを生む場面を意図的に設計できた」「研究の内容が自分の授業改善に直接役立った」 また、指導案の記述内容（問いの種類の明示・叙述の根拠・Well-beingの姿）を4月と2月の2時点で比較し、質的変容を記録する。 【見込まれる成果2】 ☒ 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 ☐ 「教員の資質や指導力」の向上 教師の授業設計力の向上が、子どもの「わかった・できた・もっと知りたい（Well-being）」につながる。国語科では子どもが叙述をもとに自分の考えを持ち、仲間と対話して考えを更新する姿が増える。体育科では「また体育やりたい」「自分でルールを考えたい」という主体的な発言が増える。対話を重視した学級経営により、「安心して間違えられる」「友達の考えを聞くのが楽しい」という学級風土が育まれ、授業の満足度が学校満足度へと波及する。 《検証方法》 児童アンケート（年3回：5月・10月・2月）の以下の項目の肯定的回答が年度末に80%以上となる。 「国語や体育の授業がわかる・楽しい」「友達と話し合って、自分の考えが変わったり深まったりすることがある」「安心して自分の考えを言える」「学校に来ることが楽しい（学校満足度）」 大阪市小学校学力経年調査の「思考・判断・表現」の領域の結果を前年度と比較し、授業改善の効果を検証する。

6	見込まれる成果とその検証方法	【見込まれる成果3】 ☐ 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 ☒ 「教員の資質や指導力」の向上 今年度整備する「研究冊子」「指導案テンプレート」「振り返りシート」「教員・児童アンケート」が若手教員・初任者の授業づくりの共有財産となり、経験年数に関わらず授業設計に取り組める環境が整う。研究発表会（12月）での発信を通じて、本研究の課題意識と今年度の取り組みを他校と共有する。 《検証方法》 教員アンケートの以下の項目の肯定的回答が80%以上となる。 「校内研究を通じて、同僚と授業づくりについて話し合う機会が増えた」「研究冊子・指導案テンプレートが自分の授業設計に役立った」「若手・初任者として、授業づくりの相談ができる環境がある」 研究発表会参加者アンケートにおいて、「本校の研究課題意識に共感できた」の回答が80%以上となる。						
7	研究成果の共有方法	◆研究発表【必須】 報告書提出日までに必ず行ってください。 ○研究発表の日程・場所（予定） <table><tr><td>日程</td><td>令和 8 年 12 月 2 日</td><td>場所</td><td>堀川小学校</td></tr></table> ◆【必須】 wakū².com-bee掲載による共有 ○掲載の日程（予定） <table><tr><td>日程</td><td>令和 9 年 2 月 12 日</td></tr></table> ◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。	日程	令和 8 年 12 月 2 日	場所	堀川小学校	日程	令和 9 年 2 月 12 日
日程	令和 8 年 12 月 2 日	場所	堀川小学校					
日程	令和 9 年 2 月 12 日							
8	代表校園長のコメント	1. 新規研究（1年目） 前サイクルに本質的な課題が残った。「子どもに問いを持たせたい」と思っても、教師自身が教材を深く読み、授業を精緻に設計できなければ、子どもの問いは生まれない。授業の質は、究極的には教師の設計力に依存するのである。 本研究では、この課題に正面から向き合う。白石孝元教授・佐藤真教授・齋藤直人教諭・沖本和子先生という、本校が長年にわたって学びを深めてきた専門家のご指導のもと、知・徳・体を貫く「教師の授業設計力」の向上を3年間の研究課題とする。 1年目は基礎の確立、2年目は検証と精緻化、3年目は成果の体系化と他校への普及。この3年間で、本校の研究を「大阪市の授業づくりのモデル」として完成させたい。教師のWell-beingと子どものWell-beingを両輪で高める本研究への助成を、強くお願いする次第である。 2. 継続研究（2年目） 3. 継続研究（3年目）						